

YOXOアントレプレナー育成プログラム シラバス

科目名	トップマネジメント講座	
講師	田中 則仁（神奈川大学経営学部教授）	
目的	自治体や企業のトップや経営幹部が登壇し、さまざま場面での意思決定の過程と、それにいたる環境条件を、どのように考察して結論に至ったかを直接聞くことで、トップの思考過程を学ぶ。	
到達目標	現実の事象や出来事を、トップがどのように分析し、それに対処してきたかを知ることで、分析力と判断力、さらには決断にいたる過程を体得する。	
授業内容（2時間×3回）	トップからの事例に則した講義をもとに、参加者との双方向の意見交換を通じて、理解と思考過程を深めていく。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	国際ビジネス基礎（国際経営フレームワーク）	
講師	行本 勢基（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	経営学の世界で使用される様々なフレームワークを紹介し、受講生が企業現場で応用可能な思考の軸を修得する。	
到達目標	受講生各自が思考の軸を修得し、企業現場の課題解決に応用することができる。	
授業内容	時代を超えて適用可能なフレームワークには普遍的な価値があり、その要素をグループディスカッションを交えながら解説する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造基礎（マーケティングフレームワーク思考）	
講師	中見 真也（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	マーケティングは、「売れる（売れ続ける）ための仕組みづくり」であり、顧客を満足させるための全社的な取り組みである。	
到達目標	マーケティング思考のフレームワークを体得する。	
授業内容	本講義では、市場環境分析（3C、SWOT分析）から、マーケティング戦略（STP）、マーケティング戦術（4P、4C）へ落とし込む思考法を、グループディスカッションを交えながら学ぶ。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	技術経営とイノベーション基礎（SDGs/ESG経営の革新とその情報開示）	
講師	越智 信仁（関東学院大学経営学部教授）	
目的	SDGsやESG（環境・社会・ガバナンス）などのサステナビリティ開示要請がグローバルに加速する中、求められる企業経営の革新とそのディスクロージャーの枠組みについて学ぶ。	
到達目標	社会的課題の解決に向けたイノベーションを財務報告と統合的に開示することで、企業価値創造を対外的に訴求する論理とフレームワークを修得する。	
授業内容	気候変動情報開示の国際的潮流や今後の展開を見据えつつ、SDGs/ESG経営とその開示を巡る基礎理論や実践的取り組みについて、グループディスカッションを交えながら解説する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	国際ビジネス中級（サプライチェーンマネジメント）	
講師	徐 寧教（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	企業が価値を創造し、顧客にそれを提供するプロセスは、企業の境界や国境などを越えた連鎖で構成されている。本講義では、その効率化と最適化について学ぶ。	
到達目標	グローバルサプライチェーンマネジメントの基礎知識と手法を身に付け、実際の経営現場を分析できる。	
授業内容	グローバルサプライチェーンを管理するための基本的な考え方と枠組みを事例とともに、グループディスカッションを交えながら学ぶ。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造中級（サービスマーケティング）	
講師	高井 典子（神奈川大学国際日本学部教授）	
目的	社会全体のサービス化が進行し、あらゆる業界においてサービス化の推進が求められている。本講義では、業種を問わず必要とされるサービスのマーケティング（SM）に関する主要な知識を修得することを目的とする。	
到達目標	SMにかかわるフレームワークを用いて、履修者各自のビジネスにおける課題を定義し、ソリューションへの道筋を考察できるようになる。	
授業内容	サービス（無形財）の特質とSMに関する代表的フレームワークを紹介し、事例を用いて、グループディスカッションを交えながらそれらの理解を深める。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	技術経営とイノベーション基礎（イノベーションを支える資金調達の基礎知識）	
講師	芦澤 美智子（横浜市立大学国際商学部准教授）	
目的	技術の社会実装/イノベーションを起こすには資金的な土台が必要となる。資金調達の全体像を理解するための基礎的知識を学ぶ。	
到達目標	イノベーションに必要な資金調達の方法の基礎を習得する。	
授業内容	本講義では、イノベーション担い手にとっての、資金調達手法を学ぶ。事例や具体的な資金の出し手の紹介なども含め、実務に応用可能な知識が得られるような授業内容とする。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	国際ビジネス応用（プロジェクトファイナンス）	
講師	一条 智行（神奈川大学経営学部非常勤講師）	
目的	プロジェクトファイナンスの手法を通じて、国際ビジネスの実務にあたり各プレイヤーの行動様式とその基本的な考え方について理解を深める。	
到達目標	特に借り手目線での財務戦略についての基礎知識を習得した上で、金融手法としてのプロジェクトファイナンスの基本、応用の知識の習得を目指す。	
授業内容	基本事項の講義を最低限行った上で、国際ビジネスの現場の実例を対象としたディスカッション、プレゼンテーションを通じ理解を深める授業形式とする。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造中級（マーケティングリサーチ）	
講師	本橋 永至（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授）	
目的	本講義では、データに基づくマーケティング意思決定を行うための基本的な考え方及び具体的な方法を学ぶ。	
到達目標	マーケティングデータの活用領域を理解するとともに、マーケティングリサーチの方法を修得する。	
授業内容	主要なマーケティングデータを紹介し、マーケティングリサーチにおける調査方法及びデータ分析手法を、グループディスカッションを交えながら解説する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造応用（ソーシャルデザイン）	
講師	中村 陽一（立教大学名誉教授）	
目的	社会実践としてのソーシャルデザインの把握	
到達目標	ソーシャルデザインをめぐる現状と課題の実践的習得	
授業内容	ソーシャルデザインの思想的・理論的含意から実践的な社会技術としてのありようまで分野・領域横断的に提示し、グループ討議を交えながらその見取図を描く。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	技術経営とイノベーション中級（実践的イノベーション人材教育）	
講師	為近 恵美（横浜国立大学地域連携推進機構教授）	
目的	イノベーション・エコシステム構築に資する人材の育成を目的とする。	
到達目標	イノベーションの本質を理解し、そのために社会をどう変えていくべきか、自身がどのように考え、どのように行動すべきかを知る。	
授業内容	なぜ起業が求められるのか、イノベーションを起こすにはどうしたらよいか、日本の産業の現状と起業の必要性についてデータで解説した後、グループ討論を行う。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	技術経営とイノベーション応用 事例研究A	
講師	真鍋 誠司（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）	
目的	技術経営の抱えるジレンマを中心に、基本的な考え方とフレームワークを理解する。	
到達目標	技術経営に関するフレームワークを用いて、分析ができる。	
授業内容	本講義では、カメラ産業の事例をもとにグループディスカッションを行い、技術経営の基礎的な理論とその応用について学ぶ。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	技術経営とイノベーション応用 事例研究B	
講師	真鍋 誠司（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）	
目的	技術経営における製品構造とビジネスモデルを中心に、その基本的な考え方と分析フレームワークを理解する。	
到達目標	技術経営に関するフレームワークを用いて、分析ができる。	
授業内容	本講義では、パソコン産業の事例をもとにグループディスカッションを行い、技術経営の基礎的な理論とその応用について学ぶ。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造事例研究A 事例研究：マテックス株式会社（予定）	
講師	中村 陽一（立教大学名誉教授）／中見 真也（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	ソーシャルデザイン・価値創造応用の講義内容を基に、企業における実践事例を学ぶ。	
到達目標	事例対象企業の実践から受講生各自の企業現場へ応用可能な方法論を修得する。	
授業内容	サステナビリティ推進をはじめとした企業と社会との関係性構築の実際をワークショップを交えつつ探究する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	ソーシャルデザイン・価値創造事例研究B 事例研究：（一社）社会デザイン・ビジネスラボ（予定）	
講師	中村 陽一（立教大学名誉教授） 三尾 幸司（（一社）社会デザイン・ビジネスラボ事務局長） 中見 真也（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	ソーシャルデザイン・価値創造応用の講義内容を基に、社会デザインビジネスにおける実践事例を学ぶ。	
到達目標	事例対象法人組織の実践から受講生各自の企業現場へ応用可能な方法論を修得する。	
授業内容	社会デザインの発想と方法をビジネスの中核に据えた実践のあり方をワークショップを交えつつ探究する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	国際ビジネス事例研究A（国際経営フレームワーク） 事例研究：三菱重工業株式会社（予定）	
講師	行本 勢基（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	国際経営（基礎）、プロジェクトファイナンスの講義内容を基に、実際の多国籍企業の企業間関係、リスクマネジメントを学ぶ。	
到達目標	事例対象企業の実践から受講生各自の企業現場へ応用可能なフレームワークを修得する。	
授業内容	国際経営環境の不確実性に対応するスキームの構築、その実践的な取り組みについて解説する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業

科目名	国際ビジネス事例研究B（国際経営フレームワーク） 事例研究：千代田化工建設株式会社（予定）	
講師	行本 勢基（神奈川大学経営学部准教授）	
目的	国際経営（基礎）、プロジェクトファイナンスの講義内容を基に、実際の多国籍企業の企業間関係、リスクマネジメントを学ぶ。	
到達目標	事例対象企業の実践から受講生各自の企業現場へ応用可能なフレームワークを修得する。	
授業内容	国際経営環境の不確実性に対応するスキームの構築、その実践的な取り組みについて解説する。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業